

広域事務に係るこれまでの取組等

「観光・文化・スポーツ振興」

1 観光振興・文化振興

(観光振興・文化振興)

関西を魅力ある観光圏としていくため、関西が一体となって戦略的に取り組むべき重点分野、事業、目標を定めることが必要であることから、観光・文化振興ビジョン「関西観光・文化振興計画」を策定（平成24年3月策定、平成27年3月改定、平成28年8月改定、平成30年3月改定）し、これらに基づき以下の重点方針を着実に推進している。

(観光振興)

(1) 多様な広域観光の展開による関西への誘客

第1期では、歴史・文化・自然やマンガ・アニメなど関西の魅力ある観光資源を有機的につなぎPRする8つの広域観光ルートを提案した。

第2期では、テーマ性・ストーリー性を有する魅力ある観光地域への訪日外国人旅行者の誘客・周遊を促進し、地域の活性化を図る国の取組に対し、関西経済連合会、関西観光本部と連携して、自然（ジオパークを含む）や世界遺産、産業関連施設など様々な観光資源と多様なゲートウェイを組み合わせた広域観光周遊ルート「美の伝説」を国へ提案し、認定を受けた。広域観光周遊ルートの情報発信を推進するとともに、関西が世界に誇る「食」や「マンガ・アニメ」、「世界遺産」、「スポーツ観光」など、毎年テーマを変えてKANSAI国際観光YEAR事業を展開した。また、関西観光WEBでは多言語化を図るとともに、ムスリム情報の発信を行うなど、市場の多様化に対応したほか、MICEでは、関西の各都市（大阪、京都、神戸）が連携して、イベントフォーラムや公開展示、学術講演などを行う学術会議を開催し、多くの参加者を集めるなどの取組を実施した。

第3期（H29～31）では、広域観光周遊ルート「美の伝説」をターゲット国の嗜好に合わせた売り込みを行うとともに、食文化・エコツーリズム・ジオツーリズム・医療観光・産業観光等、関西の強みを活かし、サブルートの造成などによる広域観光周遊ルートの充実やスポーツツーリズムの取組等、都市と地方をつなぎ外国人観光客の均整を図る多様な広域観光、ジオパークのPR活動の展開により、関西への誘客を図っている。また、引き続きKANSAI国際観光YEARも「食を楽しむ観光」「文化観光」をテーマとして実施している。

(2) 戦略的なプロモーションの展開

第1期（H22～25）では、訪日外国人の旅行消費、再訪意向及び満足度等について、国が実施する「訪日外国人消費動向調査」結果を二次利用し、関西圏内での詳細な動向

を把握するとともに、構成府県市や関係団体との連携のもと、広域連合長等によるトップセールスなどの海外観光プロモーションを戦略的に実施した。

第2期（H26～28）でも、引き続き、統計調査を行い、市場の特徴やニーズを捉まえ、東アジア、東南アジア諸国を重点的に、海外トッププロモーションを実施した。また「KANSAI 観光大使」の任命を通じて現地との関係構築を図ってきた。

第3期（H29～31）も引き続き、東アジア・東南アジア・欧米豪等における海外観光プロモーションや、関西の認知向上に向けたデスティネーション・キャンペーンの展開等、訪日旅行者の増加・拡大を図るための戦略的なプロモーションを展開している。

(3) 外国人観光客の受入を拡大し、周遊力・滞在力を高める観光基盤の整備

第1期（H22～25）では、通訳案内士（全国）の登録に関する業務（登録・変更等）について、広域連合で事務を実施することとした。また、国内外の観光客が容易かつ安全に関西圏内を観光できるよう観光案内表示に関する指針である「関西全域を対象とする観光案内表示のガイドライン」を策定した。

第2期（H26～28）では、通訳案内士登録事務等については、継続して実施するとともに、案内士業務の機会獲得と資質向上につながる研修会を実施した。また、「関西全域を対象とする観光案内表示のガイドライン」を国の多言語化対応ガイドラインに準じて改訂した。Wi-Fi環境の整備については、利用エリアの拡大と認証手続きの簡素化について取組を進めた。

第3期では、外国人観光客の受入を拡大するため、KANSAI ONE PASS のエリアの拡大や関西の空の玄関口である関西国際空港への高速交通アクセスの向上等を推進のための政府への働きかけ、無料Wi-Fiのアクセスポイントの拡大等、周遊力、滞在力を高めるための基盤整備に取り組んでいる。

(4) 東京オリンピック・パラリンピック等を見据えた文化・スポーツ観光の展開

3期において、「ラグビーワールドカップ2019」、「東京2020オリンピック・パラリンピック」、「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」等、国際的なスポーツ大会の開催に向けて、世界遺産等の関西の豊かな文化資源を活かした観光情報や関西各地で体験できるスポーツ・アクティビティの掘り起こしを行い、スポーツ・ツーリズムの推進に取り組んでいる。

また、関西の食文化の発信を活かした、関西固有・発祥の食文化事業を展開するとともに、外国人観光客の偏在解消に向けて、広域的な観光周遊を推進するとともに日本文化を体験できる旅館等へ誘導を進め、分散化を図っている。

(5) 官民が一体となった広域連携DMOの取組の推進

第2期（H26～28）では、関西広域連合、関西経済連合会、関西地域振興財団など関西の官民約60団体が一体となって、「関西観光本部」の前身である「関西国際観光推進本部」を設立した。

第3期より、広域連携DMOとして「関西観光本部」を設立し、「KANSAI ONE PASS」や「KANSAI Wi-Fi (Official)」等の観光基盤の一層の整備・拡充を図っているほか、広域観光マーケティング戦略の策定や、観光人材の育成、効果的なプロモーション等、広域連合や経済界等の官民が一体となった取組を「関西観光本部」を通して進めている。

(文化振興)

第1期では、「関西観光・文化振興計画」及び「文化首都・関西」ビジョン（平成25年9月）に基づき、人形浄瑠璃や祭りなどの関西が有する文化芸術資源をテーマでつなぐ「文化の道」事業などを展開するとともに、文化資源に気軽に接する機会として、関西2府8県の美術館や博物館などの文化施設の協力を得て入館料を無料とする「関西文化の日」を毎年11月に実施した。

(1) 関西文化の振興と国内外への魅力発信

第2期（H26～28）では、関西の祭り情報や文化イベントの情報をデータベース化し、WEB上で国内外に向けて発信するとともに、第1期に引き続き関西が有する文化芸術資源をテーマでつなぐ「文化の道」事業を展開した。

第3期（H29～31）においては、関西文化の潜在能力の大きさを活かし、関西をさらに強く発展させるため、豊かな文化資源のプロデュースによる一体的・効果的な魅力発信を行い、これらの取組の積み重ねによるレガシーの創出に取り組んでいる。

(2) 連携交流による関西文化の一層の向上

第2期では、歴史街道推進協議会や関西地域振興財団など官民の連携により、世界遺産や日本遺産等をテーマにフォーラムを開催するとともに、第1期に引き続き「関西文化の日」を毎年11月に実施した。

第3期（H29～31）では、関西にしかない文化芸術の価値を高め、人々を魅了し続ける関西文化プログラムを展開するために、構成団体間や官民の連携交流を通じて、文化観光や産業振興等の他分野への波及も視野に入れた関西文化のブランド力向上に取り組んでいる。

(3) 関西文化の次世代継承

第2期（H26～28）では、東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021関西等の開催に向けて、若手人材が企画を立案し、発表・運営する機会を設けるシンポジウムを開催し、関西文化の魅力を発信した。

第3期（H29～31）では、関西文化の価値を再認識し文化力を底上げするため、構成団体における固有の施策も踏まえ、未来を担う若者や子どもたちへの関西文化の継承や発展・創造等に取り組んでいる。

(4) 情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用

第2期（H26～28）では、行政間の連携交流を図るための場づくりや、様々な分野の専門家等から幅広い知見を求め、意見交換するためのプラットフォーム「はなやか関西・文化戦略会議」を立ち上げ、東京オリンピック・パラリンピック等に向けた関西文化の振興策を検討した。

第3期（H29～31）では、関西文化の広域的な誘客効果を地域振興に波及させるため、「はなやか関西・文化戦略会議」を活用して、行政や様々な分野の専門家、関係機関等の協働により、関西文化の振興策について検討している。

(5) 東京オリンピック・パラリンピック等や文化庁の全面的移転決定を見据えた新たな関西文化の振興

第3期（H29～31）では、東京2020オリンピック・パラリンピック等の国際スポーツイベントの開催を契機に、関西が持つ優れた文化資源や地域資源を活用し、関西に全面的に移転する文化庁をはじめ国とも連携して新たな関西文化の振興を図っている。

2 スポーツ振興

広域連合として取り組むべきスポーツ振興施策を明確にし、ライフステージに応じたスポーツ活動を振興するため、関西が一体となった取組の方向性を示した「関西広域スポーツ振興ビジョン」を第2期（平成28年3月）に策定し、これに基づき以下の重点項目を着実に推進している。

(1) 「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」の開催支援

ワールドマスターズゲームズ2021の関西への招致決定（平成25年8月）を受け、平成26年12月に「関西ワールドマスターズゲームズ組織委員会」（以下、「組織委員会」）が設立された。第2期では、「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の開催に向け、国への財政支援要望や広報活動など、組織委員会の支援を行うとともに、「関西マスターズスポーツフェスティバル」など、関西における広域的、国際的なスポーツ大会の招致及び開催に向けた取組を進めた。

第3期（H29～31）においても、「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」の開催に向け、組織委員会及び構成団体等との連携により大会の気運を醸成し、生涯スポーツの裾野を広げる取組を支援するとともに、大会と連動した周遊ルートの検討等、スポーツツーリズムの推進を図っている。

(2) 「生涯スポーツ先進地域関西」の実現

第3期（H29～31）から、地域スポーツ活動の支援をはじめ、子どものスポーツ障害予防の重要性を周知する事業や、防災や子育て等スポーツ以外の分野にスポーツをリンク

させた新しいイベントを開催すること等により、子どもや子育て層のスポーツ参加機会の拡充を図っている。

また、関西マスターズスポーツフェスティバル等の開催支援により、中・高年のスポーツを振興するとともに、障害者のスポーツ参加の拡充や施設等のバリアフリー化の推進、さらには関西圏域でのスポーツに関する意識等についての実態調査や、ボランティア参加の環境整備等、地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援に取り組んでいる。

(3) 「スポーツの聖地関西」の実現

第2期（H26～28）では、東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ2019など国際スポーツ大会の事前キャンプ地等の誘致支援に取り組んだ。

第3期（H29～31）では、インバウンドの拡大が期待できる国際競技大会や東京オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ地、他府県からの訪問者の拡大が期待できる全国大会等の招致支援や、構成団体の特性を活かせる広域的なスポーツイベントを開催している。

(4) 「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現

第3期（H29～31）では、インバウンドをはじめとしたツーリズム対策の強化を目指し、観光資源及び文化資源を融合させたプログラム創出や、関西各地に多数ある聖地と称される各競技場を活用した広域的スポーツツーリズムのプログラム創出等を通して、広域観光・文化振興と連携した事業を展開している。

また、スポーツ関連組織とのネットワーク形成に向け、企業・行政・スポーツ選手・大学等研究機関と連携し、スポーツ関連産業の現状を把握するとともに、産業分野と融合したスポーツ振興方策等について検討を進めている。